

平成 27 年度前期 授業評価アンケート結果

(1) 目的

平成 26 (2014) 年度より全学的なカリキュラム改編が行われ、新カリキュラムの PDCA の一環として、授業評価アンケートを実施しています。調査データについては、大学全体の教育の質的向上に繋げること、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを目的としております。またそれぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要であります。

(2) 対象学年および対象科目

1・3・4 年生 学部共通科目
2 年生 全科目（資格課程科目は除く）

(3) 実施期間

平成 27 (2015) 年 9 月 3 日（木）～ 9 月 11 日（金）

(4) 実施形式

マークシート形式および自由記述

(5) 履修者数・回答者数・回収率

履修者数 4227 人 回答者数 2450 人 回収率 58.0%

(6) 分析の観点

各設問に対する分析の観点は下記の通りである。

目的	観点	設問
主に個別授業の改善等の検討材料	授業運営（計画）の妥当性	1
	教育方法	4
	教員の熱意	5
	教員とのコミュニケーション	6
主にカリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証等	授業の難易度（レベル）	2 3
	学生ニーズ	7
	総合評価	8
学生の授業参加態度・学習時間・達成感の把握	学生の授業参加態度	9 10 11
	学習時間の把握	12
	学生の達成感	13

(7) 【授業評価アンケート 集計表の見方】

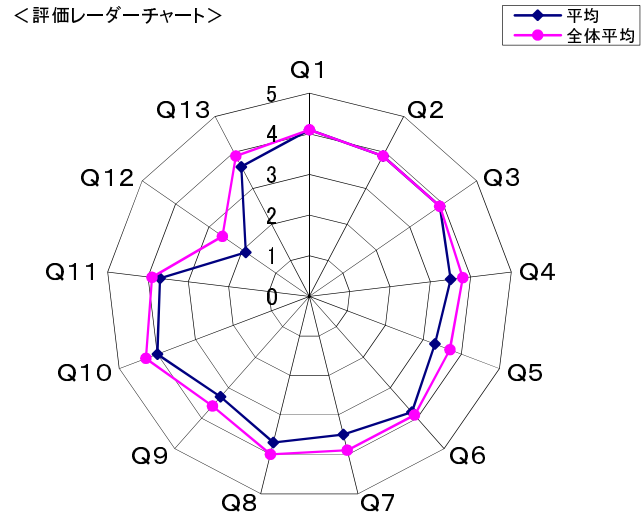
① 対象科目の履修者数・回収数・回収率などを表示しています。

キャンパス		曜日	月曜日	履修者数	156 名
学部	芸術学部・芸術学科	時限	1時限	回収数	109 名
教員	成安 太郎	教室		回収率	69.8%
科目					

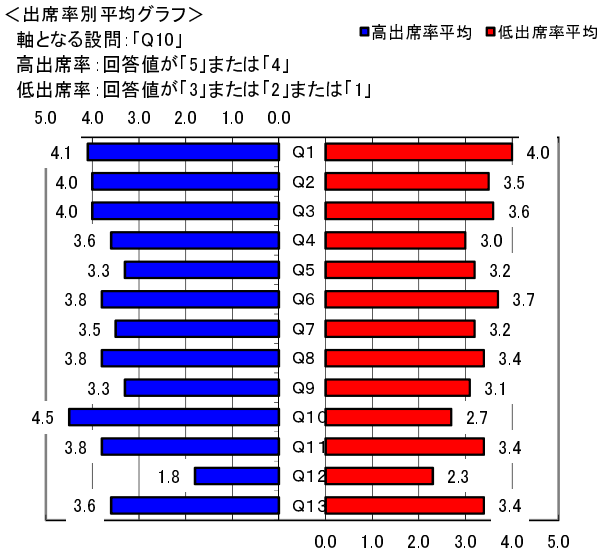
② 回答は、各設問の5つの選択肢を5～1の5段階評価に変換して、それぞれの人数を表示しています。5段階評価にすることで、設問ごとの評価平均値を数字で表すことができます。評価平均値を相対的に評価するため、アンケートを実施した全科目の評価平均値を表示しています。また、「出席率」を軸としたクロス集計平均値(出席率が高い回答者の平均値と低い回答者の平均値)を表示し、熱心に参加している学生の評価と欠席が多い学生の評価の違いを見ることができます。

	5	4	3	2	1	無回答	平均	高出席率平均	低出席率平均	全体平均
Q1. この授業はシラバス(授業計画)に沿ったものだった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	22	75	10	2	0	0	4.1	4.1	4.0	4.1
Q2. この授業の難易度は適切であった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	15	68	26	2	0	0	3.9	4.0	3.5	3.9
Q3. この授業の課題の量は適切であった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	13	71	22	3	0	0	3.9	4.0	3.6	3.9
Q4. この授業は、教養(説明や書きなど)や教科(教科書やプリントなど)は、工夫されていてわかりやすかった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	9	53	31	14	2	0	3.5	3.6	3.0	3.8
Q5. 授業担当教員に質問や相談などがしやすいよう配慮されていた 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	10	36	42	20	1	0	3.3	3.3	3.2	3.7
Q6. より高い学習成果を修得してもらいたいという教員の熱意が感じられた 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	20	52	30	7	0	0	3.8	3.8	3.7	3.9
Q7. この授業の内容(知識、スキル、制作など)は、さらに深く学びたいと思う内容だった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	13	43	37	12	4	0	3.5	3.5	3.2	3.9
Q8. この授業は総合的に判断して良い授業であった 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	12	64	21	10	1	1	3.7	3.8	3.4	4.0
Q9. 私は、この授業科目の概要、到達目標、授業計画などシラバスで理解して受講した 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	9	37	38	21	4	0	3.3	3.3	3.1	3.6
Q10. 私のこの授業における欠席回数は次にはまる 5. 0回(全出席) 4. 1～2回 3. 3～4回 2. 5～9回 1. 10回以上	37	45	20	6	1	0	4.0	4.5	2.7	4.3
Q11. 私は、受講マナー(遅刻、関係のない私語、携帯電話、居眠りなどをしない)を守って受講した 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	24	45	23	13	3	1	3.7	3.8	3.4	3.9
Q12. 私はこの授業を受講するにあたって準備学習など(授業外でおこなう予習・復習・課題・レポート等)は週に平均何時間位であった 5. 5時間以上 4. 3時間以上5時間未満 3. 1時間以上3時間未満 2. 1時間未満 1. 全くしない	0	4	22	46	36	1	1.9	1.8	2.3	2.6
Q13. 私はこの授業を受講して、新しい知識を得たり考え方が深まった、技術・技能の向上などが得られたと感じている 5. 強くそう思う 4. おおむねそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない	9	55	32	11	1	1	3.6	3.6	3.4	3.9

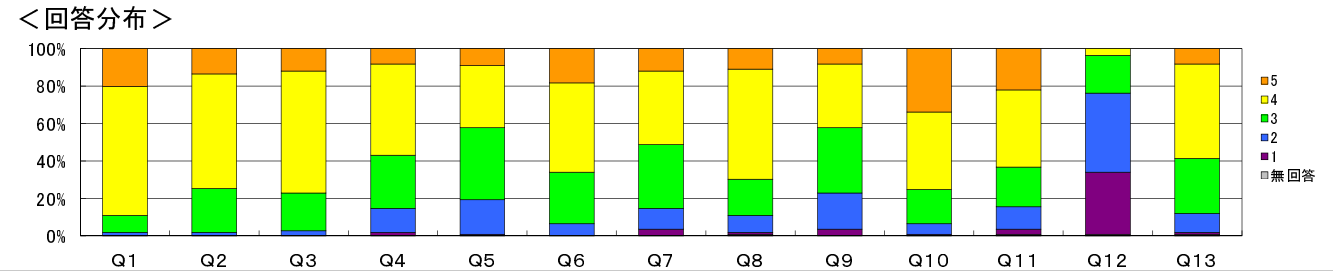
③ 各設問の評価平均値をレーダーチャートで表示しています。全体平均を重ねて表示しますので、良い評価が得られている項目とそうでない項目を判定でき、授業改善のポイントがつかみやすくなります。



④ 左向きに高出席率の回答者の平均値を右向きに低出席率の回答者の平均値を設問ごとに棒グラフで表示しています。棒グラフを左右に表示しますので、それぞれの比較をわかりやすく見るすることができます。



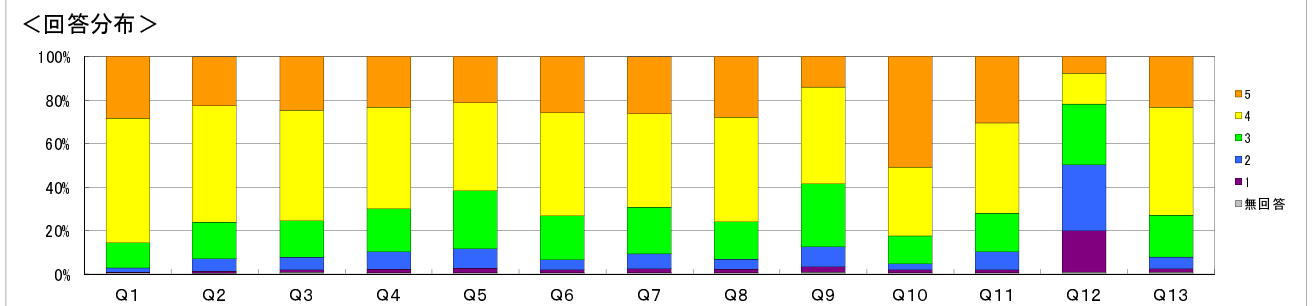
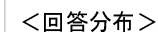
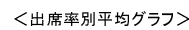
⑤ 各設問を選択肢ごとに色分けしたタテ型棒グラフで表示しています。良い評価・悪い評価を色分けして表示しますので、評価結果をひと目でとらえることができます。次年度以降、設問ごとに経年の評価平均値を棒グラフで並べて表示をする予定をしておりますので、評価平均値の推移をわかりやすく見るできるようになります。



2015年度前期 成安造形大学

項目別回答分布(人数と平均値)

＜評価リーダーチャート＞



2015 年度後期 授業評価アンケート結果

(1) 目的

平成 26 (2014) 年度より全学的なカリキュラム改編が行われ、新カリキュラムの PDCA の一環として、授業評価アンケートを実施しています。調査データについては、大学全体の教育の質的向上に繋げること、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを目的としております。またそれぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要であります。

(2) 対象学年および対象科目

全学年 全科目

(3) 実施期間

4 年生 平成 28 年 1 月 12 日 (火) ～ 2 月 19 日 (金)

1～3 年生 平成 28 年 3 月 23 日 (水) ～ 4 月 15 日 (金)

(4) 実施形式

マークシート形式および自由記述

(5) 履修者数・回答者数・回収率

対象科目数 314 回答科目数 304

履修者数 7314 回収数 4010 (回収率 54.1%)

調査内容の有効活用を図るため次年度の向けて回収率を上げることが課題であります。

(6) 分析の観点

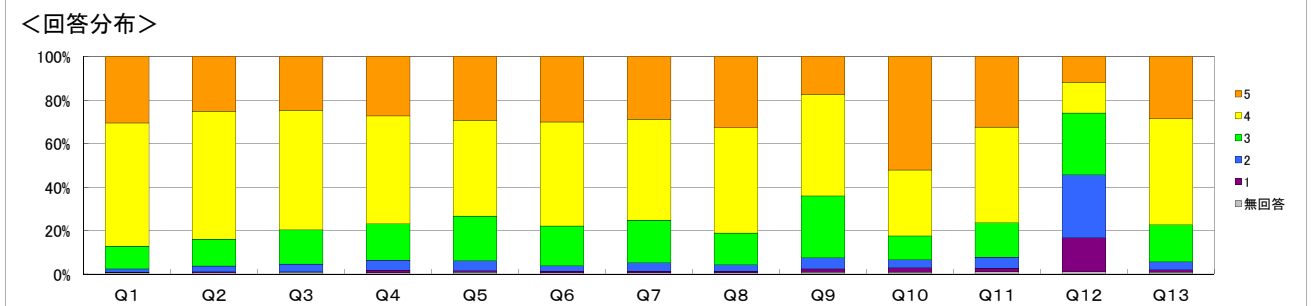
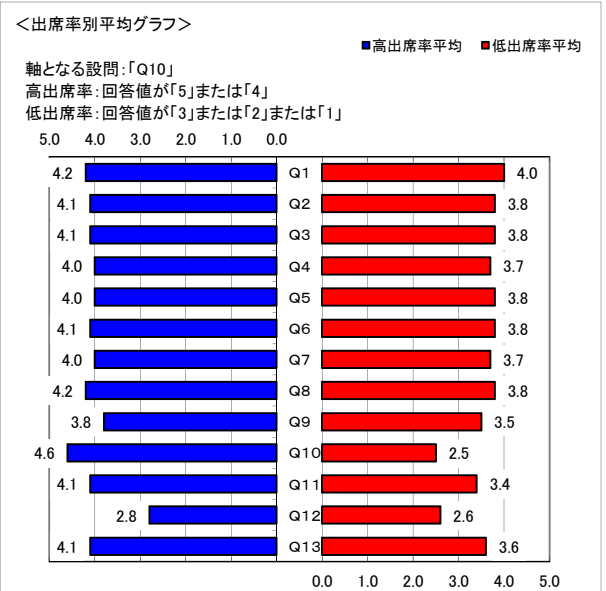
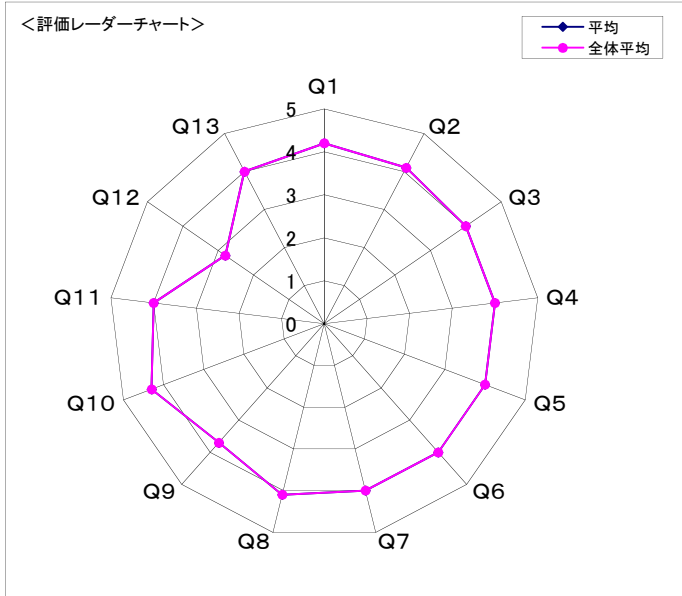
【設問の観点別 分析について】

質問項目/設問の観点/全科目の平均値を掲載しています。

各科目の項目ごとの回答を⑤を 5 点④を 4 点・・・①を 1 点として合計した値を回答数で割り、平均を出しています。

キャンパス		曜日		履修者数	7,314 名
学部	芸術学部・芸術学科	時限		回収数	3,954 名
教員		教室		回収率	54.1%
科目					

項目別回答分布(人数と平均値)

[illegible]

質問項目	観点		全体平均
Q 1、この授業はシラバス（授業計画）に沿ったものだった。	授業の計画性に関する事	個別授業の改善等に関する事 （授業計画の妥当性）	4.2
Q 2、この授業の難易度は適切であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する事 （授業の難易度、レベル）	4.1
Q 3、この授業の課題の量は適切であった。			4
Q 4、この授業は、教え方（説明や板書など）や教材（教科書やプリントなど）は、工夫されていてわかりやすかった。	授業運営に関する事	個別授業の改善等に関する事 （教育方法）	4
Q 5、授業担当教員に質問や相談などがしやすいように配慮されていた。		個別授業の改善等に関する事 （教員とのコミュニケーション）	4
Q 6、より高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が感じられた。		個別授業の改善等に関する事 （教員の熱意）	4
Q 7、この授業の内容（知識、スキル、制作など）は、さらに深く学びたいと思う内容であった。	授業の魅力に関する事	カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する事 （授業の魅力に関する事/学生ニーズ）	4
Q 8、この授業は総合的に判断して良い授業であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する事 （授業の魅力に関する事/総合評価）	4.1
Q 9、私は、この授業科目の概要、到達目標、授業計画などシラバスで理解して受講した。	学生の自己評価に関する事	学生の授業参加態度	3.7
Q10、私はこの授業における欠席回数は次にあてはまる。			4.3
Q11、私は、受講マナー（遅刻、関係のない私語、携帯電話、居眠りなどをしない）を守って受講した。			4
Q12、私は、この授業を受講するにあたって準備学習など（授業外でおこなう予習・復習・課題・レポート等）は週に平均何時間以上であった。		学生の学習時間の把握	2.8
Q13、私はこの授業を受講して、新しい知識を得たり考え方が深まったり、技術・技能の向上などが得られたと感じている。		学生の達成感	4

*** Q1～Q9 並びに Q11、Q13 について**

⑤強くそう思う ④おおむねそう思う ③どちらでもない ②あまりそう思わない ①全くそう思わないで回答をいただいております。
 全体平均 4 以上で【おおむねそう思う】から【強くそう思う】の高い満足回答が多いといえます。

*** Q10 について**

⑤0回（全出席） ④1～2回 ③3～4回 ②5～9回 ①10回以上で回答をいただいております。
 平均数値では、4.3 を示しており、全体平均 80%以上の出席率であるといえます。

*** Q12 について**

⑤5時間以上 ④3時間以上5時間未満 ③1時間以上3時間未満 ②1時間未満 ①全くしてないで回答をいただいております。
 平均数値では、2.8 と他の平均に比べて低い数値と見えますが、回答項目で見ると1科目につき週1時間以上3時間未満の準備学習をおこなっており、概ね1単位あたり求められている学習時間が確保できているといえます。